

群 教 七	E03-03
	令4.281集
	社会-高

# 諸資料を活用して多面的・多角的に考察し、 学ぶことのできる生徒の育成

—— I C T機器を活用した20分間ジグソー法を取り入れて——

特別研修員 宮崎 大志

## I 研究テーマ設定の理由

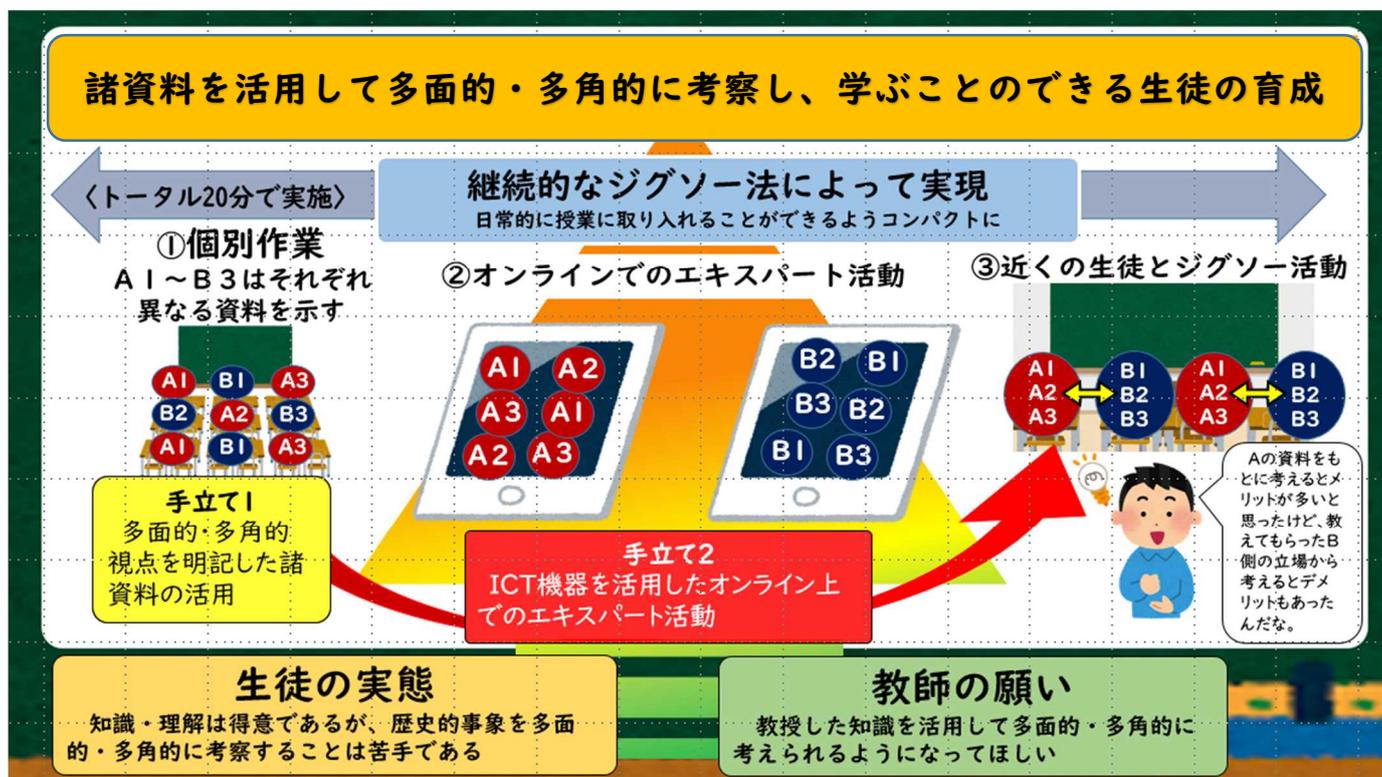
平成30年度告示高等学校学習指導要領地理歴史編の目標には「地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」とある。また、第3期群馬県教育振興基本計画では児童生徒の学力の状況について「知識・技能を活用する能力を育成することが課題」と指摘している。

これに対し研究協力校（以下、協力校）の生徒は日々の学習に対して真面目に取り組み、教師の提示する知識・考え方を積極的に理解しようとしているが、提示した知識・考え方の理解に留まり、歴史的事象の多面性や多角性について考察しようとするのは苦手である。

そこで、ジグソー活動を取り入れ、資料を活用して歴史的な事象を多面的・多角的に考察する力を育てたいと考え、上記のとおり、課題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

年間を通じた継続的な活動を行うことが重要と考え、ジグソー法を20分間で効果的な学習活動となるように次の手立てを用いた。

**手立て1 多面的・多角的視点を明記した諸資料の活用**

手立て1のワークシートは活動前後の生徒の考えが見とれるように課題を設定する。また、事象に対して複数の立場の資料を用意し、その資料をどんな立場から読み取るか明記することによって、立場を明確にした上で意見を交流させ、多面的・多角的に考えることができるようにする。これによって歴史的事象が立場によって評価が変わることについても考えさせる。

**手立て2 ICT機器を活用したオンライン上でのエキスパート活動**

手立て2のエキスパート活動はICT機器を活用し、それぞれが読み取った資料の内容をオンライン上にアップロードする。その内容を各生徒があらかじめ教師が用意した提出先で内容を共有させる。このとき、提出先を2つに分け、メリットまたはデメリットの資料が共有されるようにする。これによって3種類のメリットの資料または3種類のデメリットの資料がオンライン上で共有される。最終的にはペアワークでメリットとデメリットの共有も行い6種類の立場から歴史的事象の見方を考えさせる。

※日本政府が行った沖縄返還をどのように評価するか。



図1 立場を明記した諸資料

<p>01していつ</p> <p>10月12日 12:05</p> <p>沖縄は外国として取られていて、日本本土として受け入れられていなかった。観光客の中で外国人客が増加している。</p>	<p>メリット</p> <p>1人あたりの観光水準と所得高くなった。 本土復帰に対する意見が歓迎するものが多かった。 アメリカに統治されていたので、異文化に触れた。 デメリット 歓迎しない人はいいた。</p> <p>10月12日 12:05</p>
<p>02していつ</p> <p>10月12日 12:05</p> <p>アメリカが行っていたベトナム戦争によって経済負担が大きかったため、沖縄を返還することで兵員数の増加や日本側から原状回復補償費をもらうことができ、経済回復に繋がるから。</p>	<p>日本から見たデメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄の人は甲子園の様な種別競技などによっていれなかった</li> <li>身分証明書が必要だった。</li> <li>日本から見たメリット</li> <li>観光客が増えた</li> </ul> <p>10月12日 12:05</p>
<p>03していつ</p> <p>10月12日 12:05</p> <p>日本人としてのアイデンティティがあるため本土復帰を大半は歓迎した 本土復帰以降農産所得は大幅に向上した</p>	<p>メリット</p> <p>貿易収支が日本は上がって、海外を助けてもらえ</p>

図2 オンライン上で行われるエキスパート活動の画面

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 手立て1では、図1に示した通り立場を明記したことで歴史的事象に対する評価が複数あることの認識が深まった。また、立場の明記によって立場を明確にした上で意見の交流が促された。
- 手立て2では、図1の立場の明記によって短時間かつ効果的に学習成果を上げることができた。図2に示したICT機器を活用したエキスパート活動によって座席移動時間の短縮ができるとともに、各資料の知識の補充や読み取った資料の内容を確認ができ、スムーズにジグソー活動を行うことができた。

### 2 課題

- 手立て1として、誤って読解した資料の解釈もあったため、エキスパート活動で資料の解釈について補強することが必要であった。資料から読み取らせる内容についても精選する必要がある。
- 手立て2として、多様な意見・考えが表出したが、各資料の読み取りに対する指示が不明瞭になったために、深く内容を共有することはできなかった。しかし、この多様な意見・考えの交流の学習価値は高く、多面的・多角的に考察する力を育成する上で効果的であると感じられたので、これをどのように授業内で生かすことができるか検討する必要がある。

## 実践例

### 1 単元名 「55年体制」 (第3学年・2学期)

#### 2 本単元について

本単元は日本がどのようにして主権を回復させたかについて扱う。日本はサンフランシスコ平和条約調印によって主権を回復させたが、そのとき達成されなかった沖縄の主権回復がどのような背景のもと達成されたかについて理解させたい。それには冷戦に伴う国際環境の変化やそれに伴う国内の社会状況の変化などを関連付けて考察する必要がある。そこで本単元は複雑な国際環境や国内事情の理解を要するため多面的・多角的に考える力を養うために有用な単元と考えた。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	諸資料を活用して日本の主権回復の過程について、次の事項を身に付けられるよう指導する。 (1) 日本の主権回復の過程について、国際環境の変化や国内政治と関連付けて理解する。(知識及び技能) (2) 日本の主権回復の過程における歴史的事象がどのような背景のもと起こったか、多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等) (3) 国際環境や国内政治を関連付けて日本の主権回復の過程に関心をもち、自分なりに歴史的事象を評価し、主体的に追究し、解決しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 日本の主権回復の過程で国際環境の変化や国内政治が深く関係していることを理解している。(知識・技能) (2) 日本の主権回復が国際環境や国内政治とどのように関係していたか、多面的・多角的に考察し、表現している。(思考・判断・表現) (3) 日本の主権回復の過程について国際環境や国内政治を関連付けて考察し、歴史的事象を自分なりに評価し、その課題を主体的に追究しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・ 占領政策の方針がなぜ転換することになったのか、予想を立てる。 ・ 占領政策の転換がその後の日本にどのような影響を与えたか資料を読み取り国際環境と関連付ける。 【単元を貫く問い】日本はどのようにして主権を回復させただろう。
	第2時	・ 特需景気や警察予備隊創設の背景について考察し、日本の国際的地位の変化を表現する。
追究する	第3時	・ 独立回復の一方でGHQによる統制から政府による統制に伴う国内の反発も生じたことを考察し、表現する。
	第4時	・ 日米安全保障条約調印の過程やその後の問題について、現代の米軍基地問題とどのような関係性があるか主体的に追究する。
まとめる	第5時	・ 沖縄の返還について当時の国際環境と国内問題とを資料を読み取り、関連付ける。 ・ 沖縄返還に関する資料の読み取りを行ったうえで、その意義やその後の問題点を考察し、表現する。

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第5時に当たり、沖縄返還という日本の一つの戦後の帰結点を日本政府・沖縄の人々・アメリカの三者の視点から歴史的意義の考察を行うものである。沖縄返還は、佐藤栄作内閣の政策の目玉であり、ベトナム戦争に伴う沖縄県民の祖国復帰運動の高まりや、アメリカの経済状況の悪化に伴う軍事施設の縮小など、それぞれの立場が複雑に関係しながら達成された歴史的事象である。そこで、本授業では沖縄返還に関する複数の資料を用いたジグソー活動を通して立場によって、その評価が異なることに気付かせた上で、自分なりに歴史的事象の評価を行わせたい。

手立てについて具体的な内容は、次のとおりである。

手立て1 多面的・多角的視点を明記した諸資料の活用

手立て2 ICT機器を活用したオンライン上でのエキスパート活動

#### 4 授業の実際

導入では西側陣営にとって日本の重要性が高まる中でなぜ沖縄返還が達成されたかと問いかけ、その背景・理由について考察し、日本政府の沖縄返還を評価する活動を行った。

##### (1) 多面的・多角的視点を明記した諸資料の活用

視点を明記した資料の読み取りを通して分かったことをワークシートに記入した後、エキスパート活動の内容を、ペアワークで相手に言葉で伝える活動を行った。この作業を行うことで複数の立場から沖縄返還という事象についてメリット・デメリットの両面から考えることができる。その結果、以下の生徒の記述の変容に示すような思考の変遷を見取ることができた。

表1 生徒Aの記述の変容

オンライン上のエキスパート活動後	沖縄は観光収入が多いため、経済的に発展した。 県民の所得と所得水準が上昇し、生活の質が向上する。 沖縄返還によって、法律を区別する必要がなくなり、便利になった。
ペアワーク後	沖縄返還に伴い、沖縄から核兵器がなくなった。 米軍駐留による被害が継続している。
沖縄返還の評価	沖縄の返還は、核兵器が無くなるなど、メリットの方が大きく感じるが、一方で沖縄の人々にとっては米軍駐留による被害が継続するなどの課題が継続していると思った。

表1における生徒Aの記述では、オンライン上のエキスパート活動後の段階では沖縄の人のメリット及び、日本政府のメリットについての記述が見られた。次のペアワーク後の課題ではアメリカの軍備縮小と米軍施設が維持されたことに伴うデメリットの記述が記され、沖縄返還の評価の部分では、日本とアメリカ双方のメリット・デメリットに触れつつ自身の考えを表記することができていた。オンライン上のエキスパート活動、ペアワークを沖縄返還という歴史的事象を多角的に評価し、考察することができたと考えられる。

表2における生徒Bの記述ではオンライン上のエキスパート活動後の記述で当初「米軍人による犯罪やヘリの事故が減る。」という資料からは読み取れない内容の記述が見られた。しかし、ペアワークによって考え方に広がりが見られるとともに、沖縄返還の評価の部分ではジグソー活動を通して、メリットとデメリットの両面からの記述が見られたように変容した。

表2 生徒Bの記述の変容

オンライン上のエキスパート活動後	米軍人による犯罪やヘリの事故が減る。 米軍基地の維持費を日本が負担しなければならない。 沖縄に核兵器をおけないことで、共産圏への抑止力が低下する。 日米との関係の安定化。アメリカの沖縄統治のコスト減少。
ペアワーク後	ベトナム戦争による米の財政悪化。そこで日本に軍事費の一部を負担してもらうことで、米側の財政負担が軽減した。
沖縄返還の評価	沖縄返還により、経済的に日本が負担する面も多くなったが、沖縄県民の生活への配慮や国際関係の改善につながった点ではよい結果をもたらしたと思う。

## (2) ICT機器を活用したオンライン上でのエキスパート活動

沖縄返還によって日本政府、沖縄の人々、アメリカ政府にどのような影響があったかをカードの形式で配付し、カードを見て分かったことをオンライン上にアップロードさせた。カードはそれぞれの立場に対するメリットとデメリットの計6種類用意した。オンライン上のエキスパート活動ではメリットが共有される生徒とデメリットが共有される生徒に分け、作業を行わせた。作業はオンライン上で行ったため、座席を移動する必要はなく効率的であった。図3に示すオンライン上でのエキスパート活動の画面を参照した結果、表3のように同じ資料を見た他の生徒の考えを反映し、ワークシートに記入する様子が見られた。具体的には、活動前の記入の時点では「沖縄への渡航にパスポートが必要」との記述であったが、活動後の記述では「沖縄返還に伴って達成された」との記述に変化している。これは生徒Cがエキスパート活動前は資料の内容を沖縄返還と結び付けて考えることができていなかったが、他の生徒の考えを踏まえて、沖縄返還によってその手続きが不要になったという認識の深まりが見られたと分析できる。また、生徒Cが見ていなかった沖縄の人の立場のメリットに当たる記述も加筆されていた。

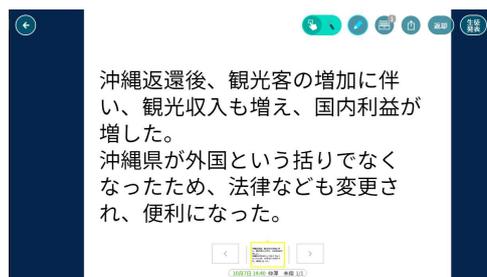


図3 生徒が閲覧した提出箱Aの一例

表3 生徒Cの記述内容の変容

オンライン上のエキスパート活動	
前	後
持ち込めるものに制限があった。沖縄に行くためにパスポートが必要であった。	返還されたことで法律を区別する必要がなくなった。県民の所得水準が上がり、生活の質が向上する。沖縄は観光収入が多いため、経済的に潤う。

## 5 考察

手立て1では、沖縄返還を評価させる際に、置かれた立場をあらかじめ明記することで、教師の意図したとおりに資料の読み取りが行われた。評価についても、形成的評価をする上で効果的であった。一方で、今回の実践では読み取りの視点について指示がなかったために、教師側が想定しない解答も見られた。このことから、立場だけでなく資料の読み取りの視点についても、明示した方が20分間ジグソー法における学習効果は高かったのではないかと分析する。また、読み取り作業の課題の難易度や読み取る資料の偏りに留意する必要があることなどが課題であった。

手立て2では、エキスパート活動をオンライン上で行ったために、作業は非常に効率的であった。また、資料についても作業時間に比して、間接的ではあるが多くの資料に触れることができたと考えられる。一方で、生徒が直に触れなかった資料について、読み取りを補強する必要があった。今回の実践では20分間の中で効果的に実践するための工夫が主題であったため、それら含めてどのように授業を構成するか、については今後の研究の課題としたい。